

■e-黒板ニュース（第44号）：味酒小学校訪問と土堂小学校訪問

1月18日には、松山市立味酒小学校の石田年保先生を訪ねました。3月4日（金）のEスクエア・アドバンス成果発表会の「e-黒板&e-教科書分科会」で光村図書出版のデジタル教科書と電子情報ボードを活用した模擬授業をお願いするためです。他に、初日では、清水康敬先生の特別講演や数学・理科・社会科・図工の模擬授業も予定しています。電子情報ボードメーカーおよび教科書会社による展示やプレゼンテーションもあります。

1月19日には、尾道市立土堂小学校の陰山英男校長を訪ねました。百ます計算の実践と現在日本一若い校長先生としても有名で、TV出演や講演などにも活躍されています。3月5日（土）の全体会のパネルディスカッションのパネリストをお願いするためです。「e-黒板&e-教科書分科会」以外では、佐伯胖先生の基調講演やIT活用の数々の実践事例報告等も予定しています。

プログラム概要は、
<http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/seika16.html>
 をご覧ください。

今年度のEスクエア・アドバンス成果発表会は、今年度もこのように充実した内容で実施すべく、準備を進めています。まだ、参加申込をされていない方は、ぜひ、今すぐ参加申込をお願いします。

http://www.cec.or.jp/e2a/mform/16_mform.html

今号の目次：

- =====
 1. 報告：松山市立味酒小学校（石田年保先生）訪問
 2. 報告：尾道市立土堂小学校（陰山英男校長）訪問
 =====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ
<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>
 をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：松山市立味酒小学校（石田年保先生）訪問

松山市立味酒小学校は、松山駅から北に歩いて約15分のところにありました。石田年保先生からは、電話で、「授業が終わってからなら、いつでもどうぞ」と、言われていたので、4時半頃に着くように訪問しました。職員室に行って、「石田先生、お願いします。」と石田先生をおよびしました。すると、きちんとスーツを着て緊張した面持ちの石田先生が現れました。何回も「国語の授業のビデオクリップ」で見た、あの石田先生です。

校長室に通され、石田先生に成果発表会での模擬授業のお願いと、e-黒板&e-教科書に関する調査のインタビューを少しさせていただきました。

模擬授業形式の発表については、「実践報告ならいいのだけど、児童がいないのに授業をするのはやったことがないので」と、ビデオクリップで見る堂々たる授業っぷりとは違って少し自信なさそうにされていましたが、「それでは、工夫してみます」と受けて下さいました。

インタビューでは、e-黒板&e-教科書を活用した授業の、授業前の狙いと、授業後の感想をお伺いしました。評価の4観点では、やはり、「関心・意欲・態度」に期待し、実際にその面で効果があったと実感されたそうです。学習課題に対しての動機付けができたことや、導入部分でデジタル教科書を活用したことで学習意欲を高めることができたとの先生の評価でした。国語があまり好きではない児童も、「国語が楽しかった」との感想があり、その後の「調べ学習」にも積極的に取り組んでいたとのことでした。点字を読んでいる場面のビデオを見せるまえに、点字の実物を配って見せるなどの工夫をされたそうです。この単元は、第三段落が難しいのだが、読み取りの部分でイメージを広げることができ、他の（デジタル教科書を使っていない）クラスと比較しても効果があったとのことでした。

また、日常的に活用する上での現状の課題についてもお伺いしました。現状では、「デジタルコンテンツが点在していてパッケージになっていない」「教科書がベースになったコンテンツを揃えて欲しい」「教員研修が重要」とおっしゃっていました。

最後に、校長先生とも面談でき、無事、模擬授業の了解も得ることができました。

2. 報告：尾道市立土堂小学校（陰山英男校長）訪問

尾道市立土堂小学校は、広島県のJR尾道駅から急な坂道を登って徒歩5分のところにある丘の中腹の小中学校です。学校の隣にはお寺があり、校庭からは港も見下ろせます。

私は、陰山校長にお会いするのをとても楽しみにしていました。それは、先生が、TVや市販本や講演等で有名だからというわけではありません。先生が常々アピールされている、「揺るぎなき基礎は、多様性に転化する」「基礎・基本と呼ばれるものは反復によってしか定着できない」「早寝早起き、食事の対話が必要」といった主張に強く共感するからです。

特に、「元気」がなければ「学力」など身につかない。子どもたちが「元気になるように」、家庭・学校・地域が一体となって環境作りをする必要があるということに同感です。

約束の時間よりだいぶ早く尾道駅についたので、JRの踏切を渡った正面の喫茶店に立ち寄りしました。店内は尾道美術会の絵の展示がありました。私は女店主に訊ねてみました。「これから、土堂小学校の校長先生にお会いするんですが、どんな校長先生ですか？」と。とても気さくな店主で、いろいろと話してくれました。

「陰山校長は、普通のことを言っているだけなのに、ずいぶんマスコミにも取上げられて、忙しそうです。私には小学校に行っているような子どもはいませんが、何にしても、成し遂げる人がいいですね。その点、頑張っているんじゃないですか。」というお話でした。

急な階段を上がって校庭に着くと、丁度休み時間でした。子どもたちは、一輪車に乗ったり、かけっこをしたり、とても「元気に」遊んでいました。子どもたちに見とれていると、思いがけなく陰山校長が声を掛けてくれました。TVで見たことのあるあの陰山先生です。初対面とは、思えませんでした。

さっそく、校長室でお話をさせていただきました。CECとは、成果発表会とは、そして、「陰山先生のお考えをストレートに話していただければいいのですね」とお伝えしました。先生は、「私はどうもIT活用には否定派と思われるようですが、むしろ急進派です。」「塾と学校をTV会議で繋いだ連携授業や、監視カメラによる常時監視など、そして、土堂小学校の授業を全国配信することも考えている。」とのこと。3月5日のパネルディスカッションには、面白いお話が聞けそうです。みなさん、ご期待ください。

そうそう、初日の情報交流会への参加をお願いしたら、「私もいっしょに勉強したいので」と、プログラムの最初から参加を表明して下さいました。

「早寝早起き」や「パネルディスカッション」の話をそっこのけにして、二人で夢中になった話題がありました。基礎基本を学ぶ知的コンテンツと健康で科学的な生活をガイドする「タブレットPCをベースにした学習用コンピュータ」の開発についてです。「e-黒板」「e-教科書」、そして、その次は「e-ノート」と想っている私には、「夢のつづき」のお話でした。

どなたか、私たちと一緒に、この「夢のつづき」を創造してみませんか？

(関 幸一)

以上

=====
 編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
 e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
 e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
 =====